

沙羅の樹文庫だより

No. 160 (19年11月)



令和1年11月1日オープンした渋谷スクランブルスクエア(右写真の左ビル。はるか奥の方に六本木ヒルズ森ビル)この年、20歳を迎えた若い娘(左写真・スクランブルスクエア屋上・渋谷スカイの突端で)は令和という彼女の時代を、何を考え、どんな風に生きてゆくのか楽しみです。佳き時代を頼みます!

今後の開館スケジュール

◆11月は通常16日(土)と17日(日)
 ◆12月は変則21日(土)と22日(日)
 ★★クリスマスお楽しみ会おはなし会★★
 ★22日10:30~12:00★
 プレゼント交換します。持ってきてね(500円)

2020年

◆1月は通常18日(土)と19日(日)
 ◆2月は通常15日(土)と16日(日)
 ◆3月は変則21日(土)と22日(日)4週

毎月開館日の日曜には、
 「子どものための小さなおはなし会」
 ♥午前10:30~11:00♥

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
 みんなで勉強会(おはなし・沙羅)は、
 毎月開館日の土曜11:00~13:00

※文庫は原則第3の日曜日とその前日の土曜日
 文庫の時間：土曜日は午後2時~5時
 日曜日は午前10時~午後3時

沙羅の樹文庫

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122
 ホームページ:saranokibunko.com

~~~~11月に寄せて~~~~

落景降る 大木に身をよせにけり  
 庭木戸を出て柿落葉 踏みてゆく  
 風(木枯らし)や 海に夕日を 吹き落す  
 行きがりの よそのよき子の 七五三  
 粗すりの 新嘗祭を 知らぬかな

(星野立子)  
 (星野立子)  
 (夏目漱石)  
 (富安風生)  
 (正岡子規)

文庫あれこれ◆ようやく秋の深まりを感じる頃となりました。文庫の沙羅の樹も全部葉を落として木の間から大鳥が美しい姿を見せています。穏やかな日…。でも台風の被害に遭われた方々は束の間の安堵すら味わえないでいらっしゃるのでしょうか。◆天皇、皇后の即位パレードで涙ぐまれた皇后をちょっとだけ拝見しました。どうぞ、雅子様お元気が続きますよう。◆10月から11月はどうしたことが、忙しく、何の準備もできず一日遅れで今日金曜日に文庫に来ました。それなのに、明日は、スタッフをお願いして、町田までおはなしの会に行き、夜トンプン返ります。日曜にはお目にかかります。◆本の入力は先ほど済みました。文庫だよりを仕上げに刷って(先月のように、停電の心配はありません)出かけます。でも、10年前(否5年前)に比べたら、体が半分も動きません、頭が半分も回転しません。こうして年を取っていくのですね。◆いつも西村個人つまらないお話で埋めてしまう文庫あれこれです。小学校のクラス会が新宿であって、でも女子は私ひとり、さびしい限り。長いこと清元を続けている親友のおさらい会が国立小劇場であって、彼女の息子を見かけ、彼の父親と見間違ひ、小さい時にあったきりの彼女の甥の様変わりに驚き、でも幸せそうな様子にうれしくなり、長い年月を感じました。免許証更新に行き、ほとんど40年運転していません、簡単な実地運転(回って、曲がって避けての何回かの繰り返し)でめでたくパス、あと3年運転資格あり! 娘たち日々、恐ろしい制度、どうぞ、日本の道路では運転しないでくださいとのこと。はいはい。◆義母の17回忌で家族が集まり…。夫さんのまた従弟夫婦がアメリカ、ハワイからやってきて、これは楽しい出会い。下の娘がやっかいな原因不明の目の病気にあって、共働きで子育て中のごころ、まったく気の毒。おまけに高額な治療費。何が起きるかわからない日々です。◆あたらしい本を入れましたが、最近のわが選択眼も怪しいので…。Nに入った本があるとよいのですが。◆いつもNさんにチェックをお願いするのですが、その時間もなく刷るのでいつに増しての誤字脱字お許しを。明日明後日、お天気でありますよう。(西村)

## 伊・豆・高・原・だより

### 富士山頂でハイタッチ その1

立田征哉・妙子

◆9月の第1週にカミさんと富士山に登ってきました。私たち夫婦は二人ともとくに70歳を過ぎていますので、考えてみればかなり無謀な挑戦だったようです。◆私たちは須走ルートから登りました。現在登山ルートは5ヶ所あり①富士スバルラインからの吉田ルート②富士宮ルート③御殿場ルート④須走ルート、そして現天皇が皇太子時代に登られた⑤プリンスルートです。◆須走ルートの最寄駅が御殿場駅ですので、電車できました。駅からは須走口五合目までバスで1時間です。思えば、昔の人は一合目から歩き始めたわけですから、その大変さを考えると、現在の登山者の殆どは五合目からのスタートではないのですが、登りと下りのルートが同じところが何ヶ所もあり、狭い道をお互いに譲りあいます。登り優先のルールを無視するマナーの悪い外国人がいたのも確かなことでした。◆富士山が世界遺産に登録されて以来、世界中から富士山に登る人が押し寄せているのが実情です。そんな理由もあって登山道は混んでいて自分のペースで登ることができません。◆五合目を10時半頃に出発して七合目の山小屋の見晴館に着いたのが

5時頃でした。この山小屋で一泊しました。夕食は定番のカレーライスでした。ほかの山小屋の様子はわかりませんが、ここでは寝袋が用意されていて、そこにもぐり込んで休みました。定員60名でしたが、この日も何人がオーバーしていたようで、正にぎゅうぎゅう詰めの雑魚寝でした。そんな中で私もカミさんも疲れていましたので、熟睡できました。◆2日目の出発は3時半頃で、山小屋の人が用意してくれたおにぎりの弁当をザックに入れ、ヘッドライトを灯しながらの登山開始でした。他のほとんどの登山者は、山頂でのご来光を見るために2時間には出発していたようでした。◆私たちはゆっくりペースでしたので、ご来光は八合目で見ることができました。よく晴れていましたので、素晴らしい日の出に感動しました。回りにも30人くらいの人達がいて、両手を合わせて合掌していました。何となくそんな敵かな気持ちになるのですね……。◆日の出の時刻は5時10分頃でした。八合目から山頂までは4時間くらいだったと思います。九合目あたりから富士登山恒例の渋滞が始まっていて、でもそのことが私たち老夫婦にとって、休む時間となり幸いでした。富士山の鳥居を見たときは、もうここが、頂上なのかと、ちょっと拍子抜けするくらいでした。◆山頂からの眺望は素晴らしく、頑張って登ってきて本当によかったと思いました。そこでカミさんとハイタッチ!最高の瞬間で、そばにいた外国人に写真を撮



っても  
 らいま  
 した。

(次号に  
 続く)

徒然なるままに・・・。

★新聞読まなくても世の中はわかる、と夫さんには言うが、私は新聞を読むひとときが好きだ。わが家の食卓は夫と私が向かい合ってすわり、双方の横にはPCが。夫は前後、深夜放送で聴き、暗い中でメモった紙を片手にPCで検索し納得する。もしくは音楽を聴く。私はメールチェックしながら、新聞に出ていた言葉やトピックに関することを調べる。そして互いに教えあう。★今朝は、新聞を読む時間なく家を出て来たので、今日はこの欄に何を書こうかと、溜めおいた新聞の切り抜きと今日の新聞をおもむろに眺める。もっぱら文化欄が主。★今日、英国在住のプレディミかこさんの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(『子どもたちの階級闘争』とともに在庫がKノンフィクション本大賞)に決まった、と出ていた。情けないけどまだ読んでいない。★イギリスと言えば、先だって、ベトナムの人々がコンテナの中で亡くなっていた記事があった。貧しさから逃れるため、家族に仕送りたいがため、借金までして大金払って密入国しようとして命を失った人々、中には日本で勉強して帰ったばかりでイギリスへという若い女性もいた。他山の石になどと言ってられない辛い話だがわが身は何もできない情けなさ。★ベルリンの壁崩壊30年。香港の騒動終結つかず。韓国とはどうなるか? ◆横田早紀江さんの談話も載っていた。中1のめぐみさんが拉致されて42年だそう。この年月。政治家よ、桜を見る会なんかで世を騒がせるなよ、と言いた。★そう言えば、今日は七五三。でも近年11月15日はあまり意味をもたない? 昔は千歳飴の長い袋を地面までぶら下げたが、それも様変わり、小さく切って可愛い透明の袋入りをデパートで見かけた。★そのデパートもだんだん無くなっていく。★でも、本は続々出版される。子どもの本の紹介本の最後(100冊目)まだ決まらない。どこへ着地するか。(さる)

2019年11月に入った大人の本

フィクション

『ライオンのおやつ』(小川糸著 ポプラ社 2019)  
ID18028  
『私の家』(青山七恵著 集英社 2019)ID18029  
『死にゆく者の祈り』(中山七里著 新潮社 2019)  
ID18030  
『熱源』(川越宗一著 文藝春秋 2019)ID18031  
『カインは言わなかった』(芦沢央著 文藝春秋 2019) ID18032  
『万波を翔る』(木内昇著 日本経済新聞出版社 2019) ID18033  
『名残の花』(澤田瞳子著 新潮社 2019)  
ID18034  
『幽玄の絵師-百鬼遊行絵巻』(三好昌子著 新潮社 2019) ID18035

『掃除婦のための手引書』(ルシア・ベルリン著 岸本佐知子訳 講談社 2019) ID18036  
『奇妙な死刑囚』(アンソニー・レイ・ヒントン著 栗木さつき訳 海と月社 2019) ID18037  
『月下の犯罪』(サーシャ・バッチャーニ著 伊東信宏訳 講談社 2019) ID18038  
『カルカッタの殺人』(アピール・ムカジー著 田村義進訳 早川書房 2019) ID18039  
『ガラン版千一夜物語2』(西尾哲夫訳 岩波書店 2019) ID18040 \*1も先月入れました。何故、今出版? たまには秋の夜長、アラビアの夜へ!

エッセイほか

『新書版 黒船前夜』(渡辺京二著 洋泉社 2019)

ID18041  
『命あれば』(瀬戸内寂聴著 新潮社 2019)  
ID18042  
『がんばらない練習』(pha 著 幻冬舎 2019)  
ID18043  
『精進料理考』(吉村昇洋著 春秋社 2019)  
ID18044  
『めぐりながれるもの人類学』(石井美保著 青土社 2019) ID18045  
『人体、なんでそうなった?』(ネイサン・レンツ著 久保美代子訳 化学同人 2019) ID18046  
『旅する絵描き-タブローの向こうへ』(いせひでこ著 文藝春秋 2019)  
ID18047



再読：悪童日記

中家 颯子

中学生のときにはじめて、アゴタ・クリストフの『悪童日記』を読んだ。この物語の舞台はある戦時下の国である。貧困のため〈大きな町〉から母親に連れられ、母親の実家がある〈小さな町〉にやってきた双子は、〈魔女〉という異名を持つ祖母に預けられる。双子は血も涙もない祖母に対し、さまざまな肉体的、精神的鍛練をしながら困難な生活を生き抜いていく。正直、全く納得できない結末が待っている。納得できないというより理解ができない。私が最も印象に残ったのは『火事』の章だ。ある日、双子が隣人の家を訪ねると、その家に母親と2人で暮らす兎口の少女(兔子)が息絶えている。どうやら外国人兵に強姦されたようだ。その隣にたたくむ兔子の母親は「こちらから呼ぶと死はけっしてやって来ない。何年も前から私が呼んでいるのに…」と言う。死を待ち続けても死ぬことが出来ず、娘に死なれた母親は自分を殺してくれと双子に頼む。そして双子はその家に火を放つのだ。ただその様子が描かれている。私だったら殺してくれと言われて殺すようなことはしない。それが一般論だ。現代の一般論で

2019年11月に入った子どもの本

絵本(新刊)

『おじいちゃんのがこのこしたものは…』(マイケル・モーバーゴ文 ジム・フィールド絵 佐藤見果夢訳 評論社 2019) ID13167  
『おばあちゃん、ほくにできることある?』(ジェシカ・シェパードさく おびかゆうこやく 偕成社 2019) ID13168  
『丘のうえのいっぼんの木に』(今森光彦作 童心社 2019) ID13169  
『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』(ディティエ・デニクス文 湯川順夫、戦争ホーキの会訳 PEF 絵 解放出版社 2019) ID13170  
\*中学生、読んで!

★以下は、下町の古本屋さんでみつけた貴重な良い本!!

『くまさんくまさん』(なかがわりえこさく やまわきゆりこえ 福音館書店) ID13157  
『はいいろおひめさまかぞえうた』(ささきまき作 絵本館) ID13158  
『トビウオのぼうやはびょうきです』(いぬいとみこ作 津田鶴冬絵 金の星社) ID13159  
『メアリー・アリスいまんじ?』(ジェフリー・アレン文 小沢正訳 童話館出版) ID13161  
『にんぎょうしばい』(キーツさく きじまはじめやく 偕成社) ID13163  
『沖釣り漁師のパート・ダウじいさん』(ロバート・マックロスキーさく わたなべしげおやく 童話館出版) ID13164  
『おりこうなアニカ』(エルサ・ベスコフさく・えいしいとしこやく 福音館書店) ID13165

沙羅の樹文庫だより160-2

『手のなかのすすめ』(アンネゲルト・フックスフーパーさく ひらのきょうこやく ほるぷ出版) ID13166

読み物ほか(新刊)

『ヤービの深い秋』(梨木香歩作 福音館書店 2019) ID13172 \*未読の人は前作『岸辺のヤービ』 ID11810 もどうぞ!  
『もうひとつの曲がり角』(岩瀬成子作 講談社 2019) ID13173  
『第八森の子もたち』(エルサ・ペルフロム作 野坂悦子訳 福音館書店) ID13171 \*request

『こども六法』(山崎聡一郎著 弘文堂 2019) ID13174

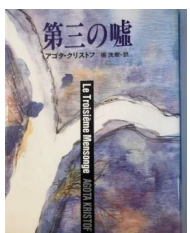
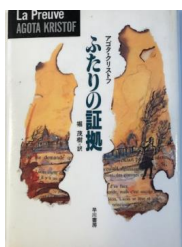
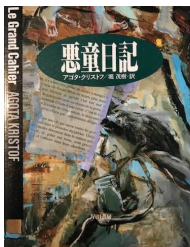
★以下も古本屋さんで発掘!!

『虔十公園林(宮沢賢治絵童話集④)』(宮沢賢治作 くもん出版) ID13160  
『アルフはひとりぼっち』(C・アネット作 S・ケロック絵 掛川恭子訳 童話館出版) ID13162



ある。しかし、この時代は違ったのかもしれないと思った。戦時中、貧困の中、大人からの愛も得られず、何が正しく間違っているのか教える教育者もいない。その状況で、双子が考えた最善は放火だったのだろう。戦争が人の心や精神にもたらす悪影響が生活にも及んでいたことを恐ろしく思った。

(アゴタ・クリストフ著 早川書房1991)  
★『悪童日記』『ふたりの嘘』『第三の嘘』三部作と『昨日』。未読の中学生、高校生、大人、クリストフの世界をあじわってみてください。



寄稿してくれた颯子さんは、今年から大学生。文庫開館時からの遠隔会員。文庫の子ども達同様、たくさんたくさん本を読んで大きくなりました。